

平成25年11月1日

各 位

会社名 株式会社スターフライヤー
 代表者名 代表取締役社長執行役員 米原 慎一
 (コード番号：9206 東証第二部)
 問合せ先 執行役員 広報IR部長 山田 通徳
 TEL 093-555-4520

通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成25年5月10日に公表した平成26年3月期（平成25年4月1日～平成26年3月31日）の業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 当期の業績予想数値の修正（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
前回発表予想（A）	34,400	190	430	510	178.0
今回修正予想（B）	33,700	△2,040	△1,800	△1,740	△607.2
増 減 額（B－A）	△700	△2,230	△2,230	△2,250	
増 減 率（％）	△2.0	—	—	—	
（参考）前期実績 （平成25年3月期）	25,166	31	47	287	100.3

2. 修正の理由

平成26年3月期の当初業績予想では、平成25年3月31日に増便した福岡－羽田線（5往復から10往復へ増便）および関西－羽田線（4往復から5往復へ増便）ならびに平成25年10月新規就航の福岡－関西線（4往復）による増収効果はあるものの、就航間もないことや昨年度から引き続き航空各社との厳しい競争環境の下、営業収入の増加は限定的であると考えておりました。

また、営業費用においては、航空機材のリース期間満了による返却に向けた整備費の増加や、代替機との航空機賃借料の重複期間などの当期における特別要因もあり、利益面においては厳しい状況を想定しておりました。

しかしながら、当第2四半期累計期間において、営業収入は対計画比で若干の未達となったものの、増収のための追加広告宣伝費用や、円安による外貨建て費用の増加のほか、想定を上回る航空機材の返却整備費の増加もあったことから、当初想定を大幅に下回る損失を計上いたしました。

下期においては、増便の認知度も向上するなどの理由から、第2四半期累計期間を上回る営業収入を想定しておりましたが、航空各社との競争環境も益々激化しており、また費用についても、広告宣

伝費の追加や、当初想定より円安が進んだ事などにより、更なる業績悪化が懸念される状況となりました。

このような厳しい環境を踏まえ、平成26年3月期通期業績が前回予想を下回る見込みとなったため、業績予想を修正いたします。

当社は、この状況を改善し経営基盤を強化するため、平成25年度下期から平成26年度までの以下の4点を骨子とした「S F J経営合理化計画」を策定し、現在実行に取りかかるための準備を鋭意進めております。今後この経営合理化計画を確実に遂行することで、業績の回復は可能だと判断しております。

< S F J経営合理化計画骨子 >

- ①航空運送事業の立て直し（路線計画の再構築）
- ②聖域なきコスト構造改革（事業構造改革）の断行
- ③戦略的な営業体制の強化
- ④附帯事業の業務拡大

（注）上記の予想数値は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上